

全学FD/SD研修会 実施報告 ～これからの大学教育を考える～

教育支援研究開発センターは、本学の教育の質に関する取組の一環として、全学的なFD/SDを推進するための研修会・ワークショップを開催しています。本号では、「学習指導要領の改訂と大学教育」をテーマとした第2回全学FD/SD研修会、「学修成果の可視化」をテーマとした第3回全学FD/SD研修会について報告いたします。

第2回で学習指導要領改訂後の現状の共有と大学教育に求められること等について理解を深めたほか、第3回では今後本学が取り組むべき教育課程レベルの目標の設定、教育手法の見直しについて学びました。

また、教育プログラム支援制度（令和4年度採択プログラム）学内報告会の様子と、「8つの資質・能力」に関する学生・教職員が一体となったワークショップの取り組みの様子もご紹介いたします。

8つの資質・能力 動画公開中！

学修者本位の教育の実現に向けての取り組み「DPに基づく『8つの資質・能力』説明動画」をPOSTのキャビネットにて公開中です。

POST > 教員・事務職員用キャビネット > 10_カリキュラムマップ・アセスメントプラン > 01_8つの資質・能力

アクティブ・ラーニングを活用した授業事例集 公開中！

本学のアクティブ・ラーニングを活用した授業をご紹介する事例集をPOSTのキャビネットにて公開中です。

POST > 教員用キャビネット > 857_教育支援研究開発センター > 01_授業支援 > 授業事例集

Contents

- p2 <FD/SD活動の推進>
 - ・令和5年度第2回全学FD/SD研修会
「これからの大学教育を考える～学習指導要領改訂の影響を見据えて～」開催
- p3 <FD/SD活動の推進>
 - ・令和5年度第3回全学FD/SD研修会
「学修成果の可視化の取り組み～展望と課題～」開催
- p4 <FD/SD活動の推進>
 - ・教育プログラム支援制度 学内報告会 開催
 - ・一人ひとりの学生の未来のためのワークショップ
「学生が教職員と一緒に考える！—いきいきと活躍するための学びとは？」開催

大学教育を考える ～学習指導要領改訂の影響を見据えて～

講師：石井 英真 先生 (京都大学教育学研究科准教授)
川西 宏和 先生 (京都産業大学附属高等学校地理歴史科教諭・KSU部長)



KYOTO SANGYO UNIVERSITY
令和5年度第2回全学FD/SD研修会

これからの 大学教育

学習指導要領改訂の影響を見据えて

令和4年度の高校入学生から改訂・学習指導要領が適用されています。受け入れる学生の高校での学びがどのようなものであったかは教員のみならず職員にも関わる重要なテーマです。第2回研修会では、京都大学大学院教育学研究科准教授の石井英真先生をお招きし、学習指導要領の改訂による高校での学習と評価の変化や大学入学者への影響、大学側にも求められること等をご講演いただきます。また、本学附属高校の川西宏和先生にもご登壇いただき、高校現場での現状もお話しいただきます。ぜひご参加ください。

講演
京都大学大学院 教育学研究科
石井 英真 准教授

現状報告
京都産業大学附属高校
川西 宏和 教諭

10/30 mon.

Start 16:45 - 18:30

場所
サガタリウス館(3階)
S315教室

実施方法
対面×オンライン(Teams)のハイブリット形式

申込方法
事前に申込フォームよりお申し込みください
<https://forms.office.com/r/LVK9q7FEK>
期限：10/26(木)締切

申込フォーム

京都産業大学
〒603-8555 京都市北区上賀茂本山
教育支援研究開発センター事務局(4号館4階) open月・金/9:00-16:30
075-705-1729
kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp

10月30日(月)、2023(令和5)年度第2回全学FD/SD研修会を開催しました。

第2回研修会では、「これからの大学教育を考える～学習指導要領改訂の影響を見据えて～」をテーマとして、学習指導要領の改訂による大学教育への影響等について理解し、今後の授業設計・カリキュラム設計の検討に役立てることを目的に実施しました。

講師には、京都大学大学院教育学研究科准教授の石井 英真 先生をお招きしてご講演いただいたほか、本学附属高校地理歴史科教諭の川西 宏和 先生にも高校現場の今についてご報告いただきました。

当日は、黒坂 光 学長からの開会挨拶ののち、まず川西先生からの現状報告がありました。新学習指導要領での学校の方針やそれに沿った授業の変化、今後の課題等を、実際の授業例の紹介も踏まえながら、報告いただきました。

その後、石井先生から、今回の話に大きく関わる「コンピテンシー」の概念を含め、学習指導要領改訂の考え方等、建学の精神には目指すべき人物像が示されていることが私立大学の特色であること、コンピテンシーは必ずしも汎用的能力とは限らないこと、まさに社会に出ていくまでの準備

(レディネス)として受け止め、学校・大学で育成する資質・能力の要素等について丁寧にご説明いただきました。また、そこから学習指導要領改訂後の大学入学生への影響や大学に求められること等をコロナ後の社会とも絡めてお話しいただきました。

当日は、対面・オンライン、オンデマンド配信視聴合わせて121名が参加しました。



参加した 教職員の声

- ・喫緊の課題として対応が求められるテーマであり、刺激になった
- ・今後入学してくる学生の特性や学びの特徴など、なんとなく分かっているようで知らなかったことが多く、今後の業務への参考になった
- ・コンピテンシーに関する見方、考え方を再考する貴重な視点をいただいた
- ・改めて大学の役割とそこで教員として存在する意義と役割を認識した。自分自身が高い視座を持っているか、学生に影響を与える存在なのかを問い直している

令和5年度第3回全学FD/SD研修会 開催

学修成果の可視化の取り組み ～展望と課題～

講師：浅野 茂先生（山形大学学術研究院教授）

令和5年度第3回全学FD/SD研修会

学修成果の可視化 の取り組み - 展望と課題 -

2024
2/27 (火) 13:00 - 14:30

講師
浅野 茂先生 (山形大学学術研究院教授)

【場所】 S218教室 (サギタリウス館2階)
【実施方法】 対面 × オンライン (Zoom)
【申込方法】 事前に申込フォームよりお申し込みください
<https://forms.office.com/r/UJ75A4rkEyd>
期限：2月22日(木) 締切

「学修成果の可視化」については、教学マネジメント指針でも重要視されています。
このたび、先進的な取り組みを行っている大学における実践の内容と課題についてご講演いただき、本学が取り組むべき目標の設定、目標の到達に向けた既存のカリキュラムや教育手法の見直し等に活用していく一助とすることを目的に、研修会を開催いたします。今回は、山形大学学術研究院教授の浅野 茂先生をお招きし、同大学の取り組みや基礎力テスト等による学修成果の測定と教育改善、学修ポートフォリオの活用・展望と課題、学修成果の可視化とデータIR等についてご講演いただきます。ぜひご参加ください。

京都産業大学
〒603-8555 京都市北区上賀茂本山
教育支援研究開発センター事務局 (4号館4階) open 月 - 金 / 9:00-16:30
075-705-1729
kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp

2月27日(火)、2023(令和5)年度第3回全学FD/SD研修会を開催しました。

第3回は、「学修成果の可視化の取り組み－展望と課題－」をテーマとして、山形大学学術研究院教授の浅野 茂先生を講師にお招きしました。

本研修会は、学修成果の可視化の先進的な取り組みを行っている大学の実践内容と課題についてご講演いただくことで、本学が取り組むべき目標の設定、目標の到達に向けたカリキュラムや教育手法の見直し等に活用していくための一助とすることを目的に開催しました。

当日は、黒坂 光 学長からの開会挨拶ののち、浅野先生からご講演いただきました。

まずは教学マネジメント指針等の政策動向と学修成果の把握についての大学の現状をご説明いただきました。そこから、山形大学におけるIRの位置づけや取り組み、目標、成果、結果の「見える化」の重要性をお話しいただきました。目標では一体的な3つのポリシーの策定や教育課程の編成・実施の単位の明確化等、成果では3つのポリシーの構造や個々の授業の到達目標のすり合わせの過程等、結果では取り組みを通じて蓄積したデータ等の活用等が重要であること

を、山形大学の基盤力テストの取り組み等を通じてご説明いただきました。

当日は、対面・オンライン等で57名(他オンデマンド配信も予定)が参加しました。



参加した 教職員の声

- ・ 政策を自大学に落とし込む手法や運営、そのための体制整備の観点等、また、教育プログラムの考え方について気づきを得ることができた
- ・ 事例を交えて詳細をご教授いただくことができ、様々な見える化に関して大学全体で取り組んでおられることが分かり、大変参考になった
- ・ 学修成果の把握にむけての高度な取組を具体的に知ることができ参考になった。一方で、結果をどう学生に見える化するか、そのための負担や効果の妥当性に課題や難しさを感じる部分もあった

教育プログラム支援制度 学内報告会 開催

11月9日（木）、教育プログラム支援制度学内報告会（令和4年度採択プログラム）を開催しました。

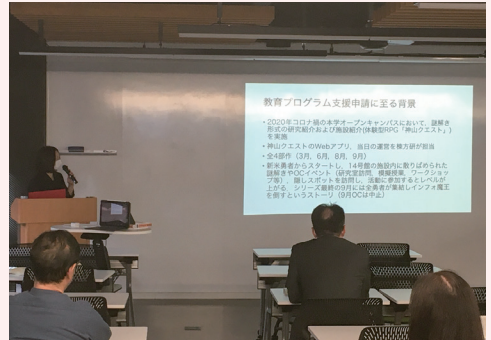
教育プログラム支援制度は、本学の教育の質向上を目指し、授業科目の開発・運営、正課の授業に係る基礎調査や試行的取組等のFD活動に対する支援を行う制度です。

この学内報告会は初めての試みで、本制度の支援を受けた2名の教員から、取り組まれてきたプログラムの実施内容や学内外への波及を含む成果・これからの展望を報告いただきました。

当日は、黒坂 光 学長をはじめ、20名の教職員が参加し、報告された先生への質問も活発に行われました。

報告者とテーマ

- 情報理工学部 棟方 渚 准教授
「観光者の行動誘導による混雑解消の試み」
- 生命科学部 西田 貴明 准教授
「大学の地域資源を活かす課題解決教育プログラムの開発」



一人ひとりの学生の未来のためのワークショップ 「学生が教職員と一緒に考える！—いきいきと活躍するための学びとは？」 開催

12月14日（木）、「一人ひとりの学生の未来のためのワークショップ」を開催しました。

本学で定めている4年間での学びを通じて、卒業までに修得を目指す「8つの資質・能力」について、学生には理解促進や意識醸成、教職員には学生の生の声を聴くことを目的に開催しました。

本ワークショップでは、株式会社たがやすの運営によって、絵や文字、図解を使って、リアルタイムに話を可視化することで話の内容をその場で確認したり整理したりする「グラフィックレコーディング」を活用しました。

最初のワークは、自分が成長できたと感じたストーリーを三人一組で報告しあい、2つ目のワークでは、「8つの資質・能力」が身に付くと、「私/私たち/大学」にどのような変化がありそうか、その先にどのような未来があるか、を学生、教員、職員がフラットに話し合う場となりました。

参加者からは、「8つの資質・能力についてさまざまな目線からの発見ができた」「成長が可視化できるとモチベーションの維持につながる」といった声が聞かれました。

当日は、志学会執行委員長を始めとする学生23名のほか、学長・副学長等教職員合わせて57名が参加しました。

